

## 委員 長 報 告 書

さる 3 月 8 日の本会議において、本委員会に付託された

議案第 30 号 橋本市空き地の適切な管理に関する条例について

議案第 31 号 橋本市民病院事業支援基金条例について

議案第 44 号 橋本市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する  
条例の一部を改正する条例について

を審査するため、3月13日に委員会を開催し、慎重審査の結果、議案第30号と議案第44号は全会一致で、議案第31号は賛成多数で原案のとおり可決すべきものと決しましたので、以下その概要を報告いたします。

### 記

議案第30号は、市内の空き地において、雑草の草刈り等十分な管理ができていないため、苦情が寄せられている。本市としては、土地所有者に対し、適切な管理を行うよう指導しているが、改善が見られない場合、より踏み込んだ対応がとれるよう条例を制定するものである。

委員から、具体的な草刈り費用と草刈りの委託先について ただしがあり、現在、空き地所有者からの依頼による場合は、シルバー人材センターを紹介している。草刈りの概算費用については、50坪の場合で草刈りとその処理を含め、1万2,000円から1万3,000円である との答弁がありました。

今後、空き地だけではなく空き家の管理条例も制定していくのか。また、空き家の敷地周辺の土地にも適用されるのか とのただしがあり、空き家の管理条例の制定については、すぐには困難であり、県の条例で対応したい。また、空き家の敷地周辺土地については、第2条第1号で「空き地」の定義を現に人が使用していない土地(空き家における空間部分を含む。)に当たるのでこの条例が適用される との答弁がありました。

議案第31号は、橋本市民病院は、昨今の医師不足、看護師不足による医

療提供体制の維持が極めて厳しい環境となっている。現行制度の中では人事や予算面で一定の制約を受け効率性を損なう一つの要因となっているため、平成28年度の地方独立行政法人化を目標に進めることとなっている。市として、地方独立行政法人化を進める市民病院の経営支援を図る目的で橋本市民病院事業支援基金を設置するものである。

委員から市民病院が地方独立行政法人になることにより経営の効率化が最優先されるのではないかと問うた。ただしが、地方独立行政法人となっても、現在の医療の供給体制は大きく変わらず、経営に特化したものではなく。理事長の権限が現在の病院事業管理者より相当強くなることは間違いないが、その根本は、市の医療政策を厳格に実施していくというものも一つの政策である。そういう点もしっかり堅持しながら永続的に黒字経営を保っていくための組織改革となる との答弁がありました。

多くの民間病院は利益をあげ黒字経営となっているが公立病院の多くはなぜ赤字経営となっているのか と問うた。ただしが、公立病院の多くは、小児医療、救急医療及び産科医療など不採算部門を抱えているが、一般的に民間病院の多くは、不採算部門を抱えないで開業する。自治体病院によく言われるのが過剰投資である。民間病院は、過剰投資をなくし、効率経営ができないと倒産となる との答弁がありました。

討論に入り、反対の立場から、市民病院事業会計を支援することに異議はないが、地方独立行政法人化することによって、市民の命と健康を守る砦としての役割が後退するのではないかと危惧する。利益を優先する経営に変わりはないのか、不採算の診療科は切り捨てられないのか、病院職員の給料は引き下げられないのかなども危惧する。また、奈良県内で新たな病院建設が進められていることや和歌山県立医科大学附属病院紀北分院の新たな動きなどから、市民病院の患者数が減少する要因が生まれていることなどから、赤字経営に至る前に独立行政法人化したいとの考えであると理解する。地方独立行政法人に向かうことは、時期尚早であると考え反対する との討論がありました。

賛成の立場から、公立病院のほとんどが独立行政法人化されており、市

民病院が独立行政法人化されることにより、医療サービスが低下することではなくますます隆盛になると考える。他の公立病院もすでに独立行政法人として立派に経営されていることから賛成する との討論がありました。

議案第44号は、埋立ごみ指定袋について、袋が大きすぎる、破れやすいなど改善を求める声が多く寄せられ、それを受けて大きさや素材について検討した結果、大きさについては、30ℓを15ℓに、枚数についても一冊10枚入りから5枚入りに変更し、販売価格を1枚30円から15円に改正するものである。なお、素材は、生分解性プラスチックからポリエチレンに変更し、破れにくいものになっている。

委員から大きい袋と小さい袋の両方があった方が良いのではないかと のただしがあり、30ℓの大きい袋に埋立ごみをいっぱい詰めた場合は、重たくて持ちにくいことから、小さい袋に改善している との答弁がありました。

10月から変更されるが、現状の袋も使用できるのか、また現状の袋の成分は風化しやすい成分であったが新しい袋の成分はどうか とのただしがあり、現在使用中の袋はこれからも使用可能である。素材について、現状の袋は生分解性プラスチックを利用していたが新しい袋の成分についても、従来から埋め立てしてもよいものと考えている との答弁がありました。

小さい袋が使いやすいので、交換してほしいという場合は可能か とのただしがあり、現在の袋も引き続き使用できることから交換は考えていない。 との答弁がありました。